

# 中間支援に関する委員活動の ご紹介

# 委員の活動を通じて見えた課題①(かわさき市民活動センター)

## <設置目的>

- ・市民相互の連携を図りながら市民活動の活性化を促進
- ・青少年の心身の健全な育成を図るため、青少年事業の推進及び地域組織への支援



住みよい地域社会の確立に寄与すること

## <主な事業>

### 1 市民活動の推進

- ・会議室、ブース、フリースペースなどの運営
- ・市民活動相談窓口の設置
- ・「パワーアップセミナー」「NPO発見・創造セミナー」などの講座の開催



- ・市民活動フェア「ごえん楽市」、市民活動交流会「ごえんカフェ」などのイベントの開催



- ・かわさき市民公益活動助成金制度の運営
- ・情報誌「ナンバーゼロ」、市民活動募集冊子「ボラ・ナビ」の発行、神奈川新聞へのコラム掲載



### 2 青少年の健全育成

- ・こども文化センターの運営
- ・わくわくプラザの運営
- ・地域子育て支援センターの運営

## <課題>

- ・かわさき市民活動支援センターの認知度が低い。現在1カ所しかないが小規模拠点が3カ所程度あるとよい
- ・市民活動団体が使用できるブースの数が少ないため、一部の団体しか使えない
- ・自主事業をするべきだが、市の補助金で運営しているため難しい

# 委員の活動を通じて見えた課題②

## (川崎市社会福祉協議会 ボランティア活動振興センター)

### <設置目的>

・市民の福祉についての意識の高揚と市内ボランティア活動の効果的な振興を図る（設置規定）

### <主な事業>

#### 1 相談・情報の収集、提供

・ボランティア活動や福祉問題の相談

#### 2 調査・研究

・ボランティア活動の現状や動向の把握と課題の検討

#### 3 啓発・広報

・福祉問題やボランティア活動についての情報誌・ハンドブック等の発行、講演会などの開催



#### 4 研修

・ボランティア活動を推進するリーダーやコーディネーターなどを養成、支援するための研修などを実施



#### 5 福祉教育の推進

・チャレボラの開催などを通じた社会体験・ボランティア体験活動の推進



#### 6 ボランティアグループなどの育成支援

・ボランティアグループへの助成、活動の相談や支援の実施。ボランティア相互交流の支援

#### 7 連絡調整・ネットワークづくり

・各区の社会福祉協議会をはじめ関係機関・団体との連絡調整と必要な連携やネットワークづくり

#### 8 寄託金品の活用

・金銭や物品等の寄付の有効活用

#### 9 ボランティア交流室の貸出

・団体へのボランティア交流室の貸出

#### 10 社会福祉協議会の各種保険の受付

・ボランティア活動保険など各種保険の受付

### <課題>

- ・専任職員の配置が必要。市と各区にボランティアセンターが職員は他の業務との兼任
- ・課題解決力向上のためのテーマ型組織との連携強化

# 委員の活動を通じて見えた課題③ (mass × mass関内フューチャーセンター)

## <ミッション>

- ・持続可能な未来へ行動する企業家・個人・団体・コミュニティとともに働き、さまざまな仕組みを“カタチヅクル”

※カタチヅクル=形あるものにする。可視化（情報発信）・運動化（事業・組織化）

## <主な事業>

### 1 コワーキングスペース・シェアオフィス運営事業

- ・アーリーステージの起業家向けインキュベーション施設
- ・75事業者が入居（2015年1月現在）



神奈川県産の間伐材を使用したシェアオフィス「TENTO」

### 2 講座、イベントの企画・運営事業

- ・マスマスカフェ  
(これから活動を始めたい人向けの交流の場)



### 3 社会的事業の起業支援・プロデュース・サポート事業

- ・ソーシャルビジネススタートアップ講座（横浜市事業）
- ・これまでに800名の修了生を輩出
- ・NPO支援機関の専門力強化及びNPOと支援機関のマッチングによる中長期計画作成支援（神奈川県事業）



### 4 場づくり・まちづくりプロデュース・調査分析事業

- ・まちなか社食  
(地域を一つの企業と捉え、オフィスワーカーの健康と地域の飲食店、農家をつなぐ場づくり)



### 5 デザイン・クリエイティブ・メディア事業

### 6 クラウドファンディング事業

- ・FAAVO横浜の運営



## <課題>

- ・NPOのビジネスモデル構築
- ・NPOの資金調達力の強化  
例) 日本政策金融公庫はソーシャルビジネス事業者への融資を優遇（介護・保育・障害など福祉系NPOはチャンス拡大）
- ・NPOの担い手の高齢化
- ・地域課題の解決の担い手の多様化に制度が追い付いていない
- ・日本における中間支援組織の専門性のあいまいさ（特にアドボカシー機能）

# 委員の活動を通じて見えた課題④(宮前区まちづくり協議会)

## <設置目的>

- ・地域で活動している区民や活動団体、テーマを持って活動している区民や活動団体を“つなぐ・むすぶ”
- ・新しい活動を育成し“ひろげる”



魅力あるまちづくりを目指す

## <主な事業>

### 1「まちづくりに役立つ情報を発信しよう」

- ・まちづくりの情報を取材編集して広報誌を発行
- ・インターネットでまちづくりの情報発信
- ・区内で活動のために使えるお役立ち情報を紹介
- ・ウォーキングの企画を通してまちのことを知る
- ・宮前の魅力を写真を通して伝える



### 2 まちで活動する人たちをつなぎ・むすび・ひろげよう

- ・活動する人を応援する資金支援の運営
- ・区内を花いっぱいにする活動団体に花苗の支援
- ・活動している人同士が交流できる場づくり
- ・活動する人に役立つ講座を企画
- ・まちのことをみんなで考えるイベントづくり



### 3 まちの課題に取り組み住みやすい地域を目指そう

- ・環境の美化促進
- ・交通利便性の向上
- ・防災の準備
- ・福祉の充実



## <課題>

- ・部門、委員会は多いが、人（マンパワー）は少ない → 新しい人の参加が必要
- ・各部門、委員会のまとめり、長期目標、まち協としての理念がない → 目指すものをつむぎ上げる必要がある
- ・世代交代が必要 → 今の時代に合った仕組み（オープンデータ、ビッグデータ）が必要